

2026年3月期第3四半期 決算説明会

2026年2月6日

太陽誘電株式会社
取締役専務執行役員 経営企画本部長
福田 智光

決算サマリー

2026年3月期第3四半期 連結業績概要

- 売上高は11月時点の予想を上回り、885億円。第2四半期までのコンデンサの売上に一部前倒し需要が含まれていたことなどから、前四半期比で5%減収。
- 営業利益は75億円で、11月時点の予想を上回った。固定費削減や円安による為替影響などにより、前四半期比27%増益。

2026年3月期 連結業績予想

- 11月に発表した業績予想を上方修正。
- 売上高は3,540億円(前期比4%増)、営業利益は210億円(同101%増)を計画。
- 通信用デバイス事業の構造改革で追加施策を実施。第4四半期に事業構造改善費用10億円の発生を見込み、親会社株主に帰属する当期純利益は130億円(同458%増)と予想。

2026年3月期第3四半期 連結業績概要

売上高は885億円で、11月時点の予想を上回る結果となりました。
前四半期に対しては、5%の減収でした。
第2四半期までの売上に一部前倒し需要が含まれていたと思われることから、主にコンデンサの売上が減少しました。

営業利益も11月時点の予想を上回り、75億円でした。
固定費の削減や為替が円安に推移したことなどにより、
前四半期に対して27%の増益となりました。

2026年3月期 連結業績予想

第3四半期までの実績と今後の需要予測などに基づき、
11月に発表した通期の業績予想を上方修正しました。
売上高は前期比4%増収の3,540億円、
営業利益は同101%増益の210億円を計画しています。

なお、当社は通信用デバイス事業の構造改革に取り組んでおりますが、
このたび追加施策を実行することに伴い、第4四半期に
特別損失として事業構造改善費用10億円が発生する見込みです。
その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は
同458%増の130億円になると予想しております。

2026年3月期第3四半期
連結業績概要

第3四半期 連結業績概要(前四半期比)

百万円	2026年3月期 第2四半期		2026年3月期 第3四半期		増減	
売上高	92,813	100.0%	88,515	100.0%	△4,297	△4.6%
営業利益	5,881	6.3%	7,494	8.5%	1,613	27.4%
経常利益	7,849	8.5%	11,694	13.2%	3,844	49.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,416	6.9%	7,086	8.0%	669	10.4%
対米ドル期中平均レート	146.33円		151.50円		5.17円円安	
為替変動による影響額	売上高 +24億円、営業利益 +14億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,600		3,519		△80	△2.2%
設備投資額	8,667		12,095		3,428	39.5%
減価償却費	12,054		12,521		466	3.9%

©TAIYO YUDEN CO., LTD.

TAIYO YUDEN

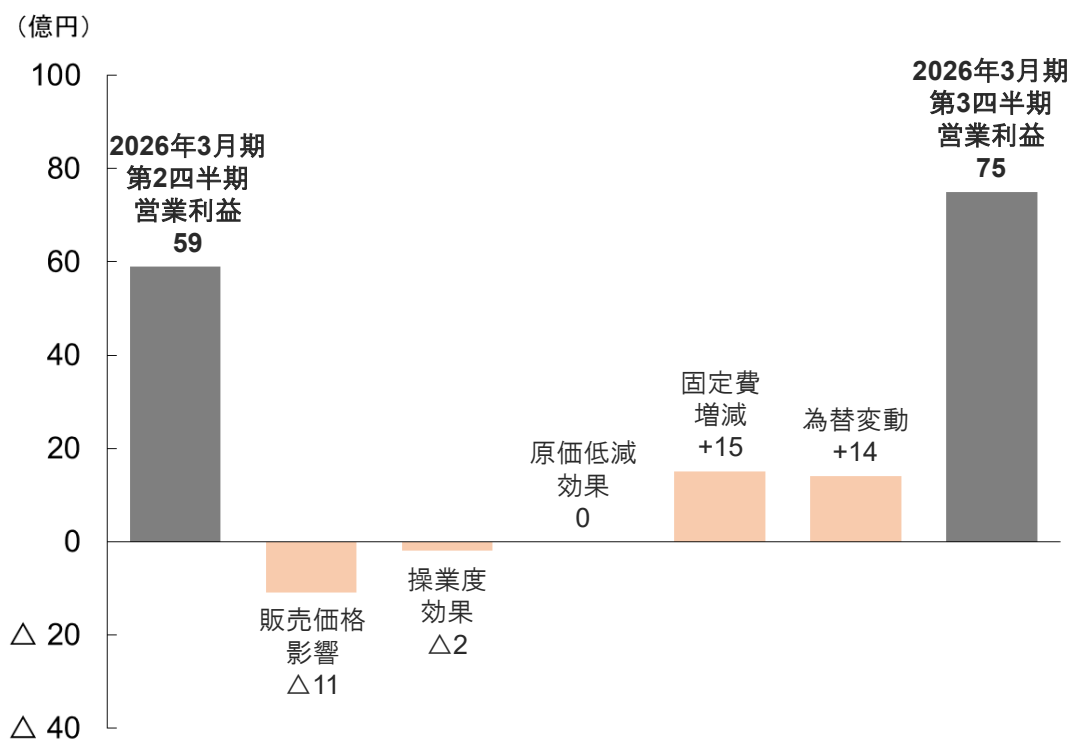
4

先ほど申し上げた通り、第3四半期の売上高は885億円、営業利益は75億円となりました。
四半期末の為替レートが、9月末の1米ドル148円台に対して12月末は156円台と大幅な円安になったため、営業外収益として50億円の為替差益を計上し、経常利益は117億円となりました。
親会社株主に帰属する四半期純利益は、71億円でした。

期中平均の為替レートは1米ドル151円台で、前四半期に対して約5円の円安でした。
これにより、売上高に対して24億円、営業利益に対して14億円のプラス影響がありました。

研究開発費は35億円で、前四半期とほぼ同水準でした。
設備投資額は前四半期から34億円増加して121億円、減価償却費は同5億円増加して125億円でした。

第3四半期 営業利益増減要因(前四半期比)



営業利益が前四半期に対して増益となった主な要因は、人件費や電力費などを中心とした固定費の削減15億円と為替変動による影響14億円です。

一方、販売価格の低下が11億円の減益要因となりましたが、上期と同じく、同一製品を比較した値下がり率は期初想定に対して緩やかなペースが続いています。

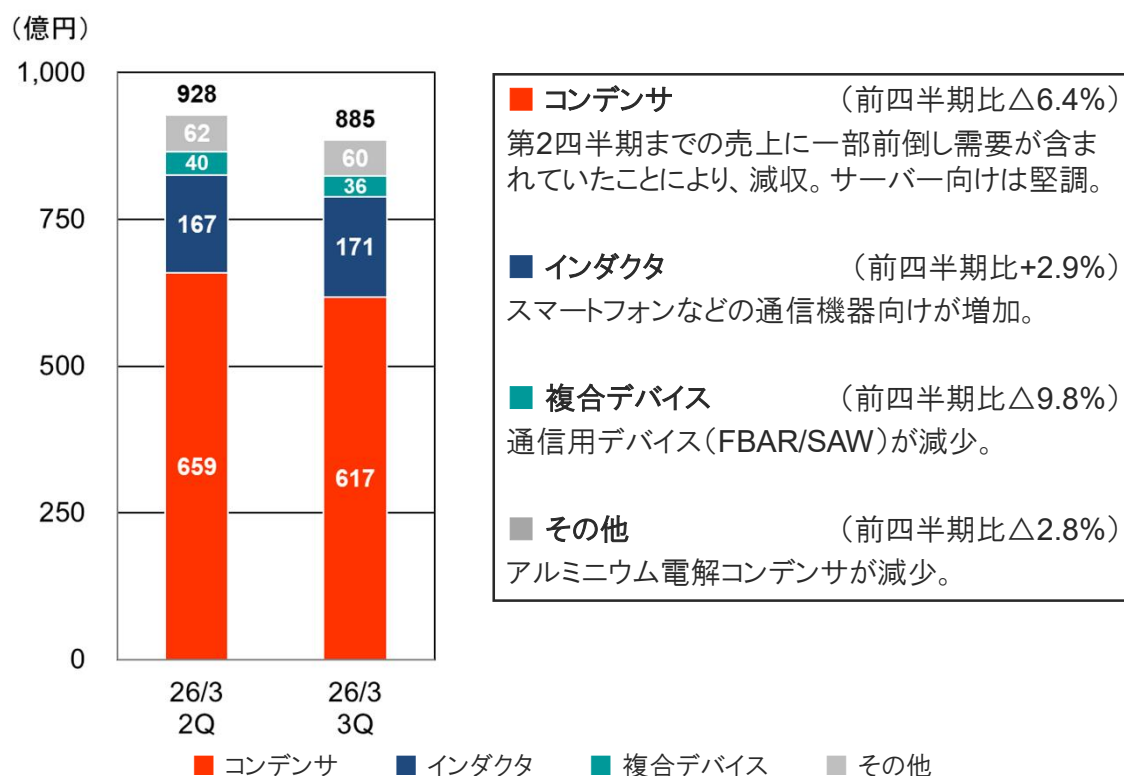
また、販売数量が減少したことにより、操業度効果マイナス2億円も営業利益を押し下げる要因となりました。操業度効果には、販売数量増減や棚卸資産の増減のほか、ミックス改善の影響などが含まれています。なお、12月末の全社の棚卸資産は、為替や利益に影響がない部分を除いた実態ベースで、9月末より35億円増加しました。

その結果、営業利益は前四半期から16億円増加し、75億円となりました。

第3四半期 製品別売上高(前四半期比)

百万円	2026年3月期 第2四半期		2026年3月期 第3四半期		増減	
コンデンサ	65,908	71.0%	61,702	69.7%	△4,205	△6.4%
インダクタ	16,652	17.9%	17,132	19.4%	479	2.9%
複合デバイス	4,031	4.3%	3,635	4.1%	△395	△9.8%
その他	6,220	6.7%	6,044	6.8%	△175	△2.8%
合計	92,813	100.0%	88,515	100.0%	△4,297	△4.6%

第3四半期 製品別売上高(前四半期比)



©TAIYO YUDEN CO., LTD.

TAIYO YUDEN

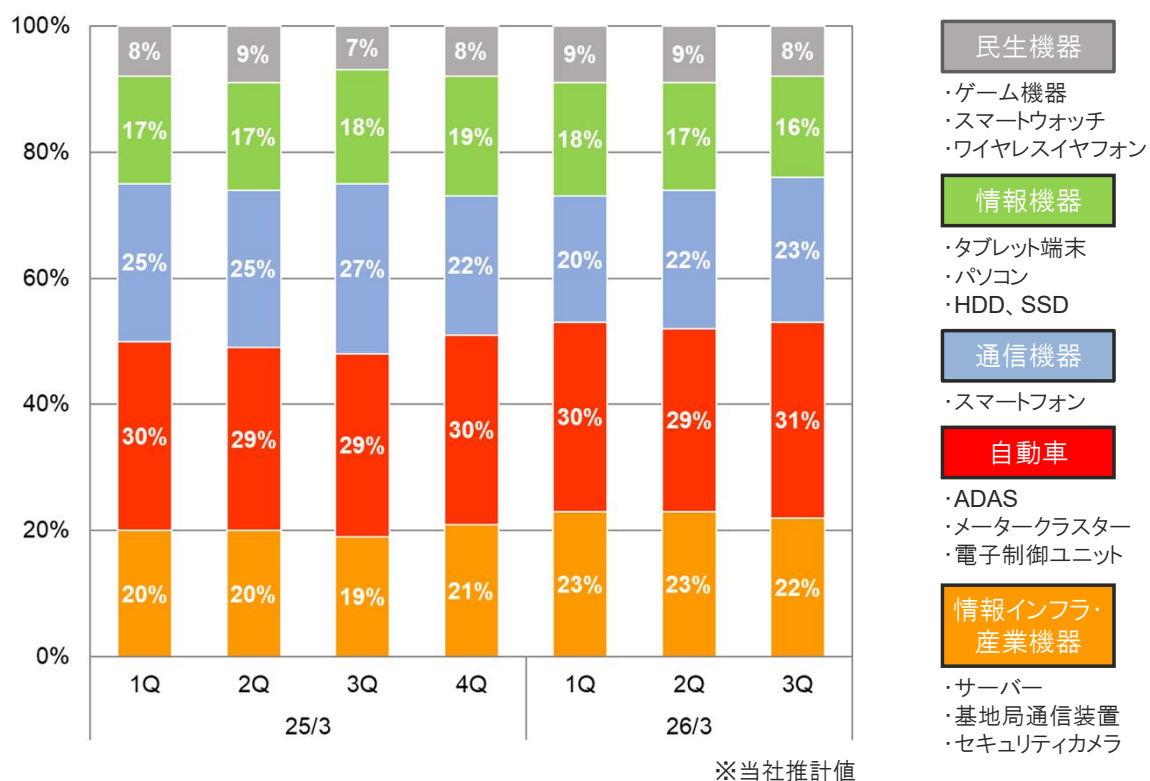
7

コンデンサの売上高は617億円でした。
 サーバー向けの需要は堅調ですが、
 第2四半期までの売上に一部前倒し需要が含まれていたため、
 前四半期から6%の減収となりました。
 なお、第3四半期のコンデンサの稼働率は85%前後でした。

インダクタの売上高は、同3%増の171億円でした。
 季節的な需要期であるスマートフォンに代表される
 通信機器向けの売上が拡大しました。

複合デバイスは通信用デバイスの減少により同10%減、
 その他はアルミニウム電解コンデンサの減少により同3%の減収となりました。

用途分野別売上構成



©TAIYO YUDEN Co., Ltd.

TAIYO YUDEN

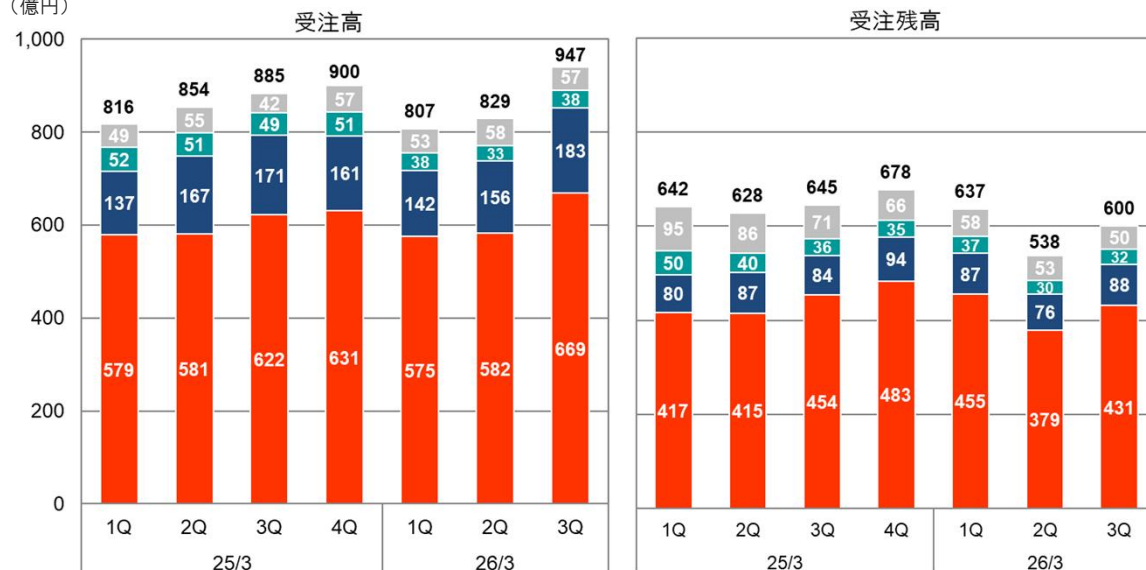
8

自動車向けの売上構成比は2ポイント上昇し、31%となりました。
 それ以外は、情報インフラ・産業機器向けが22%、通信機器向けが23%、
 情報機器向けが16%、民生機器向けが8%と、
 売上構成比に大きな変化はありませんでした。

受注高・受注残高

(億円)

1,000



BBレシオ

	25/3				26/3		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
全社	1.01	0.98	1.02	1.04	0.95	0.89	1.07
コンデンサ	1.05	1.00	1.07	1.05	0.95	0.88	1.08

■ コンデンサ
 ■ インダクタ
■ 複合デバイス
 ■ その他

※BBレシオ＝受注高／売上高

©TAIYO YUDEN CO., LTD.

TAIYO YUDEN

9

第3四半期のコンデンサの受注高は669億円で、前四半期からプラス15%と大幅に増加しました。また、全社でも同14%増加し、947億円でした。売上高に対する割合を示すBBレシオは、コンデンサが1.08、全社が1.07と、いずれも受注高が売上高を大きく上回りました。

その結果、受注残高はコンデンサ、全社ともに前四半期末より増加しました。

2026年3月期
連結業績予想

2026年3月期 連結業績予想

百万円	2025年3月期		2026年3月期 前回予想		2026年3月期 今回予想		増減			
							前期比		前回予想比	
売上高	341,438	100.0%	347,500	100.0%	354,000	100.0%	12,562	3.7%	6,500	1.9%
営業利益	10,459	3.1%	18,000	5.2%	21,000	5.9%	10,541	100.8%	3,000	16.7%
経常利益	10,517	3.1%	15,000	4.3%	22,000	6.2%	11,483	109.2%	7,000	46.7%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,328	0.7%	9,000	2.6%	13,000	3.7%	10,672	458.4%	4,000	44.4%
対米ドル 期中平均レート	152.61円		147.13円		149.75円		2.86円円高		2.62円円安	
為替変動に よる影響額	前期比：売上高 △42億円、営業利益 △41億円 前回予想比：売上高 +56億円、営業利益 +30億円 ※米ドル以外の通貨影響含む									
研究開発費	15,042		15,500		15,500		458	3.0%	0	0.0%
設備投資額	64,158		46,000		46,000		△18,158	△28.3%	0	0.0%
減価償却費	46,258		48,000		48,000		1,742	3.8%	0	0.0%

©TAIYO YUDEN CO., LTD.

TAIYO YUDEN

11

冒頭で申し上げた通り、通期業績予想を11月に発表したものから
上方修正しました。

新たな業績予想は、売上高が3,540億円、営業利益が210億円、
経常利益が220億円、親会社株主に帰属する当期純利益が130億円で、
前期に対して増収増益となる見込みです。

業績予想を修正した主な理由は、為替の変動です。

円安の進行によって売上高や営業利益が押し上げられることに加え、
営業外収益として為替差益が計上される見込みであることから、
経常利益が前回予想に対して大きく増加すると見えています。

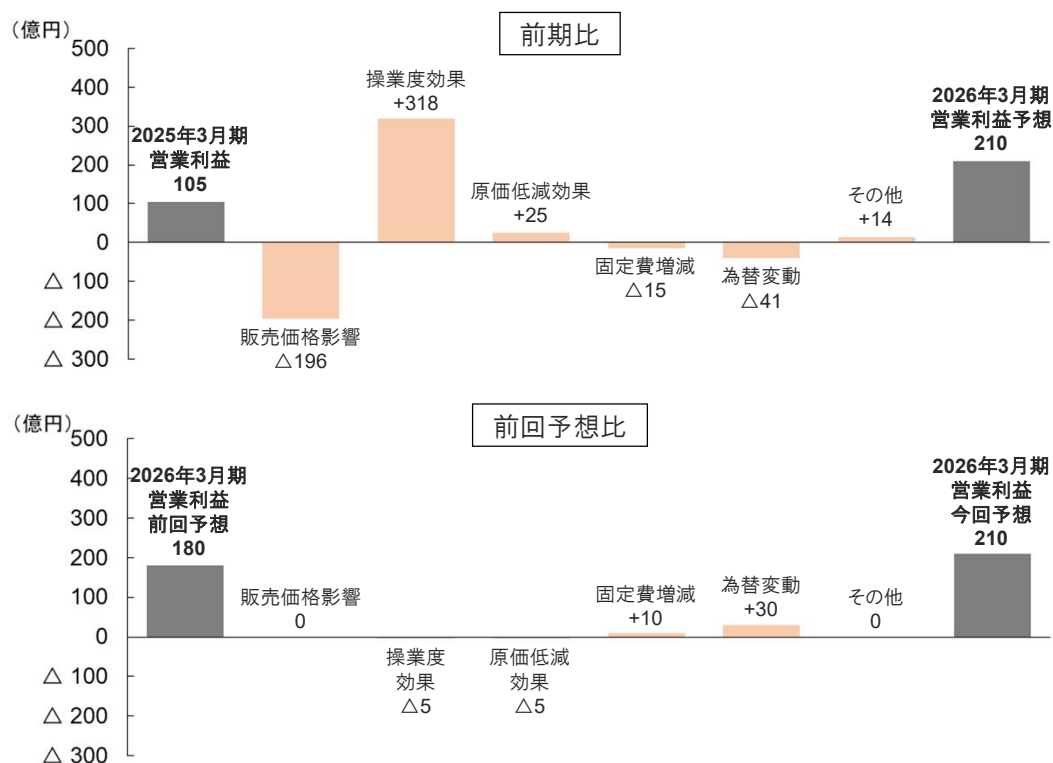
為替レートは、期中平均で1米ドル149円台、

期末日で154円を想定しています。

なお、第4四半期には通信用デバイスの構造改革の追加施策により、
特別損失として事業構造改善費用10億円が発生する見込みです。

研究開発費、設備投資額、減価償却費は
従来 of 予想から変更しておりません。

2026年3月期 営業利益予想増減要因



前期比での営業利益予想増減要因は、上のグラフの通りです。
操業度効果や原価低減効果などの増益要因が、
販売価格の低下や為替変動、固定費の増加といった減益要因を上回り、
105億円の増益となる見込みです。

11月の前回予想からの変化は、下のグラフをご覧ください。
上方修正の要因は、為替影響と固定費の抑制です。
操業度効果については主に通信用デバイスの在庫削減により、
原価低減効果につきましては部材費の上昇により、
それぞれ5億円引き下げました。
製品別では、通信デバイスやその他の収益性がやや悪化する一方で、
コンデンサは収益性が改善している状況です。

2026年3月期 製品別売上高予想

百万円	2025年3月期		2026年3月期 前回予想		2026年3月期 今回予想		増減			
							前期比		前回予想比	
コンデンサ	232,066	68.0%	248,000	71.4%	251,500	71.0%	19,434	8.4%	3,500	1.4%
インダクタ	61,546	18.0%	60,300	17.4%	63,500	17.9%	1,954	3.2%	3,200	5.3%
複合デバイス	22,986	6.7%	14,800	4.3%	14,500	4.1%	△8,486	△36.9%	△300	△2.0%
その他	24,838	7.3%	24,400	7.0%	24,500	6.9%	△338	△1.4%	100	0.4%
合計	341,438	100.0%	347,500	100.0%	354,000	100.0%	12,562	3.7%	6,500	1.9%

製品別の売上高予想は、この表の通りです。
中国系ハイエンドスマートフォンの需要低迷の影響が大きい複合デバイスは
前回予想から引き下げましたが、コンデンサやインダクタを増額した結果、
全社では前期比4%の増収となる計画です。

第4四半期 製品別売上高予想

百万円	2026年3月期 第3四半期	2026年3月期 第4四半期予想 (前四半期比増減)
コンデンサ	61,702	+3%
インダクタ	17,132	△13%
複合デバイス	3,635	△11%
その他	6,044	±0%
合計	88,515	△1%

対米ドル期中平均レート	151.50円	(前提) 155.00円
-------------	---------	--------------

第4四半期の製品別売上高予想は、この表の通りです。

コンデンサは、スマートフォンを中心とした通信機器向けなどが減少するものの、サーバーなど情報インフラ・産業機器向けの拡大により、第3四半期に対して3%の増収が見込まれます。

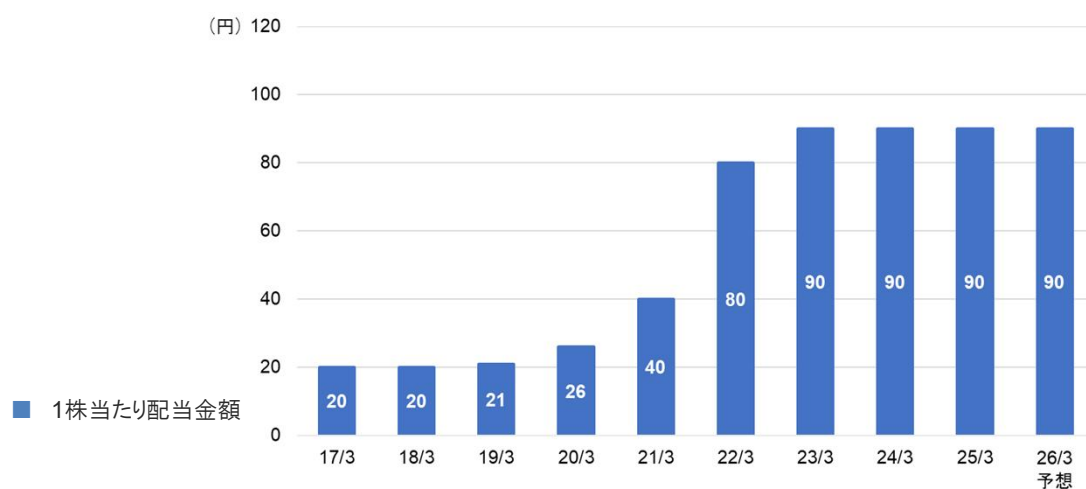
一方で、スマートフォン需要の季節変動の影響をより大きく受けるインダクタは、同13%の減収となる見込みです。

複合デバイスは同11%減収、その他は第3四半期と同水準で、全社合計では同1%の減収となる想定です。

なお、為替レートは1米ドル155円の前提です。

株主還元

配当性向30%および株主資本配当率(DOE)3.5%の実現を目指す



配当性向(%)	43.4	14.4	11.1	18.2	17.5	18.5	48.3	134.8	482.1	86.6
株主資本配当率(DOE)(%)	1.5	1.4	1.3	1.6	2.1	3.3	3.5	3.4	3.5	3.3
総還元性向(%)	43.4	14.4	24.0	40.3	17.5	27.6	48.3	134.8	482.1	—
自己株式取得額(億円)	0	0	30	40	0	50	0	0	0	—

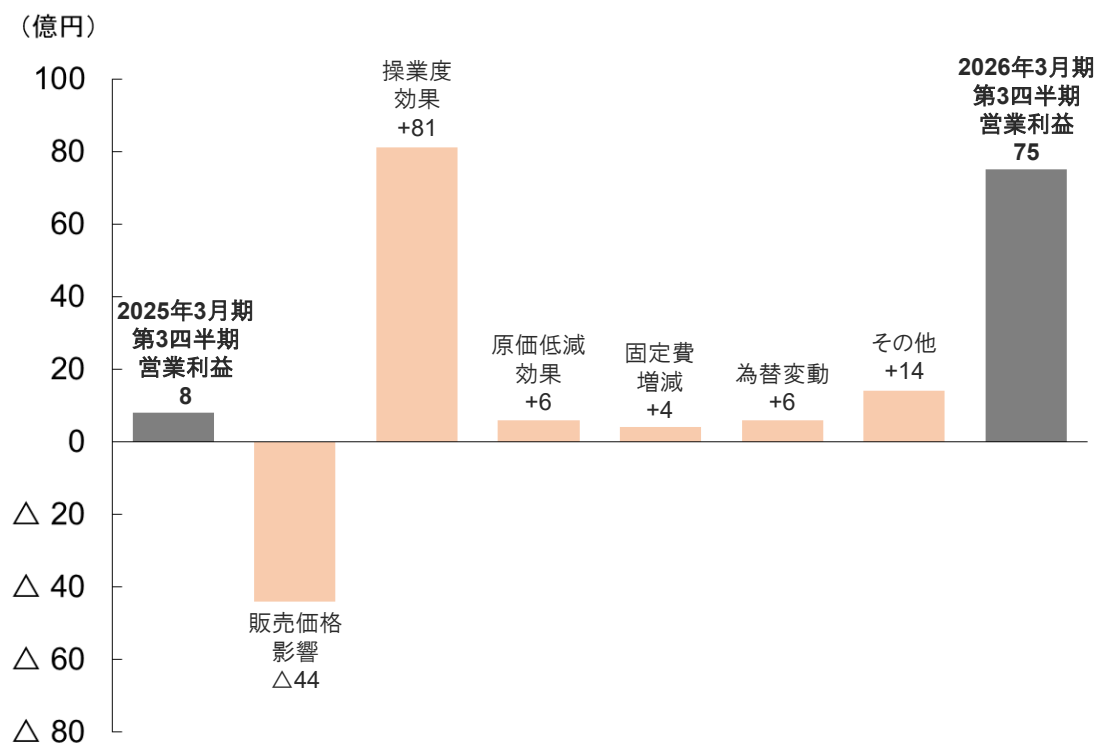
配当については期初計画から変更なく、年間90円を予定しています。
引き続き、配当性向30%と株主資本配当率3.5%を株主還元の指標とし、
1株当たり利益の増加による配当の安定的な増加に努めてまいります。

補足資料

第3四半期 連結業績概要(前年同期比)

百万円	2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		増減	
売上高	86,868	100.0%	88,515	100.0%	1,646	1.9%
営業利益	825	1.0%	7,494	8.5%	6,669	807.6%
経常利益	6,925	8.0%	11,694	13.2%	4,768	68.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,598	5.3%	7,086	8.0%	2,487	54.1%
対米ドル期中平均レート	149.04円		151.50円		2.46円円安	
為替変動による影響額	売上高 +11億円、営業利益 +6億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,775		3,519		△255	△6.8%
設備投資額	16,329		12,095		△4,233	△25.9%
減価償却費	11,899		12,521		621	5.2%

第3四半期 営業利益増減要因(前年同期比)



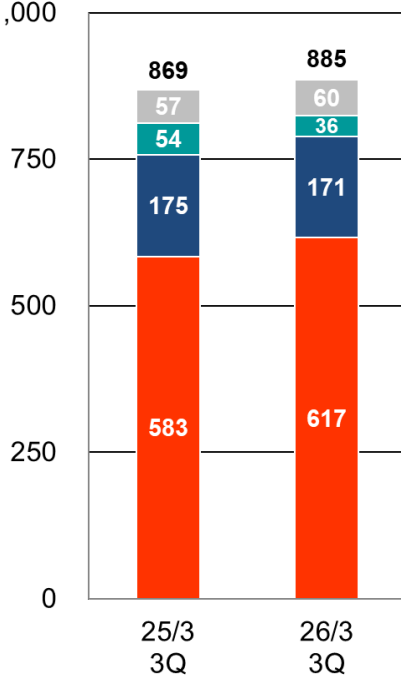
第3四半期 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		増減	
コンデンサ	58,317	67.1%	61,702	69.7%	3,385	5.8%
インダクタ	17,471	20.1%	17,132	19.4%	△339	△1.9%
複合デバイス	5,363	6.2%	3,635	4.1%	△1,728	△32.2%
その他	5,714	6.6%	6,044	6.8%	329	5.8%
合計	86,868	100.0%	88,515	100.0%	1,646	1.9%

第3四半期 製品別売上高(前年同期比)

(億円)

1,000



■ **コンデンサ** (前年同期比+5.8%)

自動車、AIサーバーなどの情報インフラ・産業機器向けが増加。情報機器、通信機器向けなどは減少。

■ **インダクタ** (前年同期比△1.9%)

民生機器、情報インフラ・産業機器向けが増加したものの、通信機器向けなどが減少。

■ **複合デバイス** (前年同期比△32.2%)

事業の選択と集中により、回路モジュールが大幅に減少。通信用デバイス(FBAR/SAW)も減少。

■ **その他** (前年同期比+5.8%)

アルミニウム電解コンデンサが増加。

■ コンデンサ

■ インダクタ

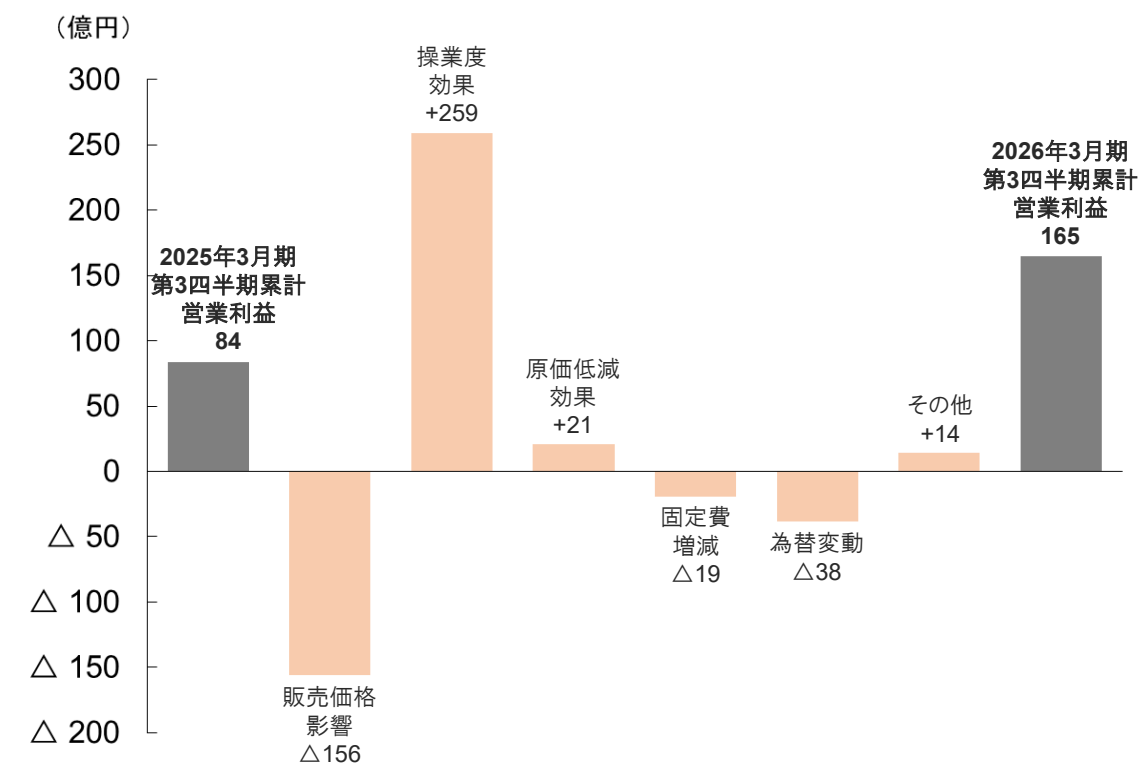
■ 複合デバイス

■ その他

第3四半期累計 連結業績概要(前年同期比)

百万円	2025年3月期 第3四半期累計		2026年3月期 第3四半期累計		増減	
売上高	254,724	100.0%	266,139	100.0%	11,414	4.5%
営業利益	8,402	3.3%	16,519	6.2%	8,116	96.6%
経常利益	13,685	5.4%	19,800	7.4%	6,115	44.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,166	3.2%	12,626	4.7%	4,460	54.6%
対米ドル期中平均レート	152.11円		148.00円		4.11円円高	
為替変動による影響額	売上高 △56億円、営業利益 △38億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	11,103		10,706		△397	△3.6%
設備投資額	46,410		31,694		△14,716	△31.7%
減価償却費	33,825		36,008		2,182	6.5%

第3四半期累計 営業利益増減要因(前年同期比)

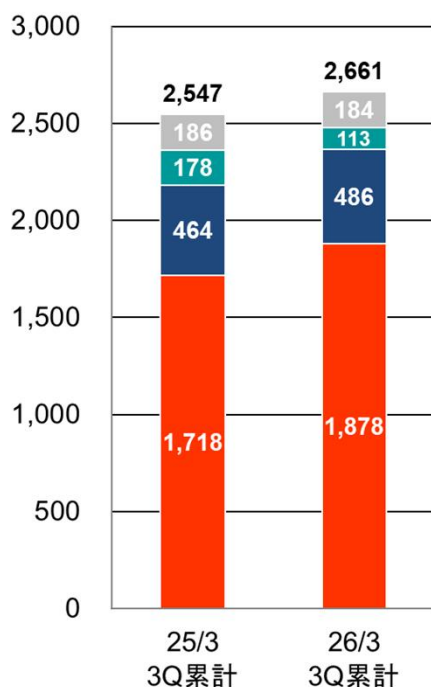


第3四半期累計 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2025年3月期 第3四半期累計		2026年3月期 第3四半期累計		増減	
コンデンサ	171,788	67.4%	187,809	70.6%	16,020	9.3%
インダクタ	46,446	18.2%	48,624	18.3%	2,178	4.7%
複合デバイス	17,849	7.0%	11,276	4.2%	△6,573	△36.8%
その他	18,640	7.3%	18,429	6.9%	△211	△1.1%
合計	254,724	100.0%	266,139	100.0%	11,414	4.5%

第3四半期累計 製品別売上高(前年同期比)

(億円)



■ コンデンサ (前年同期比+9.3%)

自動車、AIサーバーなどの情報インフラ・産業機器向けなどが増加。情報機器、通信機器向けは減少。

■ インダクタ (前年同期比+4.7%)

民生機器、メモリモジュールなどの情報機器向けを中心に売上が拡大。

■ 複合デバイス (前年同期比△36.8%)

事業の選択と集中により、回路モジュールが大幅に減少。通信用デバイス(FBAR/SAW)も減少。

■ その他 (前年同期比△1.1%)

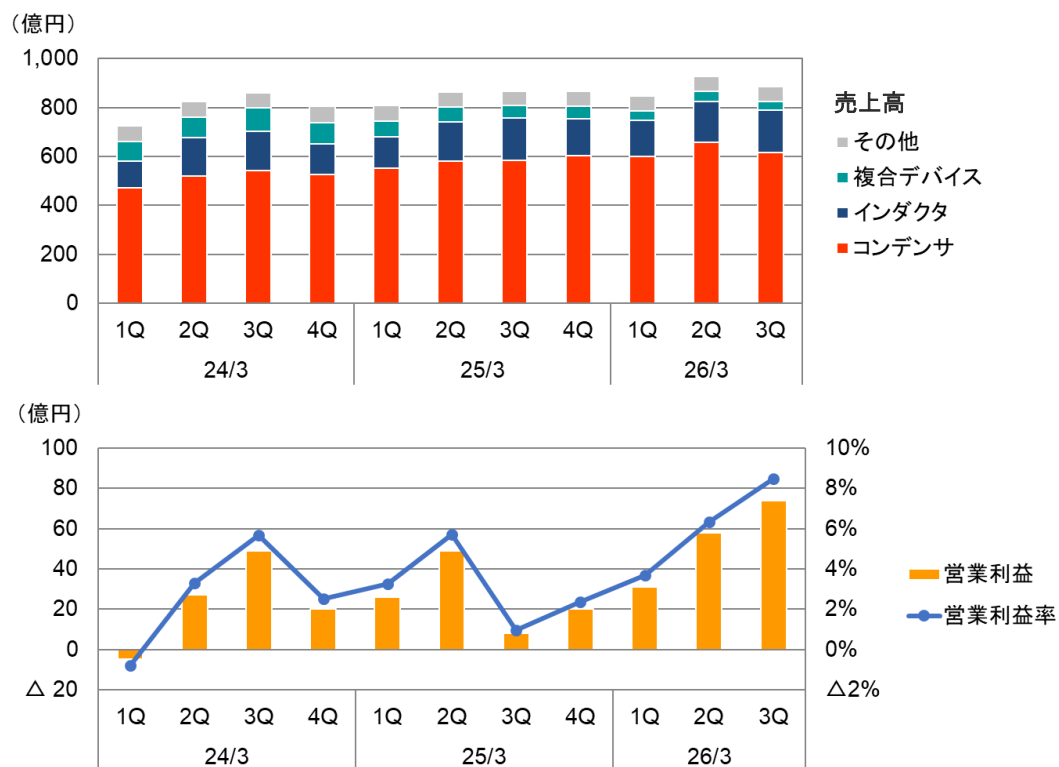
アルミニウム電解コンデンサが減少。

■ コンデンサ ■ インダクタ ■ 複合デバイス ■ その他

連結業績推移(四半期)

百万円	2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	72,612	82,814	86,386	80,834	81,138	86,718	86,868	86,713	84,810	92,813	88,515
コンデンサ	47,133	51,950	54,190	52,554	55,192	58,278	58,317	60,277	60,197	65,908	61,702
インダクタ	10,976	15,748	16,196	12,645	13,011	15,963	17,471	15,100	14,839	16,652	17,132
複合デバイス	8,182	8,326	9,641	8,784	6,388	6,097	5,363	5,137	3,608	4,031	3,635
その他	6,320	6,789	6,358	6,849	6,546	6,379	5,714	6,197	6,164	6,220	6,044
営業利益	△577	2,721	4,900	2,036	2,630	4,945	825	2,057	3,142	5,881	7,494
経常利益	1,159	5,127	1,169	6,301	8,377	△1,617	6,925	△3,167	256	7,849	11,694
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	903	2,497	276	4,641	6,309	△2,741	4,598	△5,837	△876	6,416	7,086
対米ドル 期中平均レート	134.93 円	142.47 円	149.10 円	146.76 円	153.15 円	154.14 円	149.04 円	154.11 円	146.18 円	146.33 円	151.50 円

連結業績推移(四半期)



連結財政状態

百万円	2025年3月末	2025年12月末	増減
現金及び預金	78,166	88,552	10,386
資産合計	573,188	608,581	35,392
有利子負債	164,401	171,022	6,621
負債合計	254,017	269,569	15,551
純資産合計	319,171	339,012	19,841
自己資本比率	55.6%	55.7%	—
ネットキャッシュ	△86,235	△82,470	3,764
D/Eレシオ	0.52	0.50	—

当資料に記載されている、当社（太陽誘電株式会社、および当社グループ）に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN

©TAIYO YUDEN CO., LTD.